

家藏書目録

~13
2132
51



2132
51

本宗

世人セドん聞め夜や火ひがいくくがい

聞き懐くわいふふ本ほん学がくがかきき流りゅう一いつ行ぎやう脈まく

けけ了りやう大だい根こんがが毎まいくくくく

くくくくととくくにに今いまのの心こころ

忠ちゆう心しんがが頼たのむむ心しん子こ、ひ解げ一いつ了りやう

藤原
文庫

藤原
文庫

家々んと筆ふよりきく書綴りの

少くも一筆書はらむとてさしづる

あつ水の年のすく日

東、北、南、西、の四角に

蓬萊山人 帰松庵



家書長命四季物語

春の部

撰者によす 二軒葉屋に山用書

世の中は、きくえくはくくのなかりせ。 たるのころは、長雨かきま。 古来、案づはむく、乃事。 只、あせは、それぞ、あつ。 春、り、く、あ、つ、下、戸、も、上、戸、も、さ、る、こ、も。

孫も薬師も引くもんど。ほゆる
 處そ又の道。八日十二日も也さん乃
 出に利くうは。わううを。めさぬ
 何の散浅とさる。おやまわうと。
 乃邊色に飛さな。ばちのしを
 おうげも有ろ。うう。所ハ知れ。さ。茶
 場早。薬者の卵と掃のき。家と

人

建る。や。毎。善。の。長。命。と。い。ふ。送。者。を。
 薬者と送者ハ似る。れど。風。を。さ。
 け。と。い。ひ。人。ぬ。足。で。き。い。ま。る。ぬ。さ。
 一。田。車。工。ま。仕。出。さ。き。ん。と。ん。ど。今。ハ
 山。を。ど。押。と。と。張。疲。身。代。も。お。癒。に。
 土地でもあ。ね。い。も。送。者。と。
 い。も。身。は。け。友。

長奉

是ハお持てよふこと。

可流定可

業内もやうと通る

志うしゑん日でもいひふ。二人の口をく
 せまの處へ。奉とうりふさう百あふ。
 せうらつと。おとらへしやしやう。古
 くのもいひもろ。子統といひふさう
 屋しやうら福立。不流。若れはよふせ
 せが。長命。男まらる。是花 equal 秋とあや
 といひてまひ。客がまらてお出たさうか。

者が勝さ。長命。なんといふ向う書校へ。
 可流。いくあさ。今庭に申車が存家へ
 うち二年。祇徳八旭のく保任者の
 とうし。二巻ながく書校務さ。さうしつて
 ながいおし。酒さやまら。さうしつておあ
 お秋ハ。まらさうさう。使のおさうしつて
 客とあさ。ゆき。あき。らんをまら。か
 のおら。唇あしとおのいふいまさうえ

う終付くはよしくを中へ終るとして。
定可まこときりの地屋さ。はらごいさうでい
み入い申まことこ。おまことげいのまこと。この
るらちりまこととまことま。おまことさふ。らち斗まこと
碑まこと申まことこ。たまことふままことぐかいまことちまことふ
らまことひさ。おまことめまことぐまことおまことままことごまことざり
申まことこ。定可まこと月夜まことてまこと仕合まことさ。
九

酒まこと事まことりまこと。可流まことこまことふまこと庵まことんまことくまことと。
さけまことぢまことらまことりまこと呑まことんでまことも。昔まこと一まこと流まことも
終まことうまこと。山まこと初まことままこと。終まことふまことどまことやまこと終まことくまことら。
申まこと秋まことそれまことがまこと終まことふまことでまこと終まことくまこと申まことら。
長命まことそまことうまことらまこと事まことあまことらまことちまことらまことのまことま
らまことままことらまこととまこと合まことせまこと申まことふまこと。申まことままことどまことど
目まことのまことちまことらまこと合まことさまことせまことたまことらまことせまことくまこと。長命まことおまことれまことが

とばくしとてばとてしゆく。じめ
持らる。茶月なまものろ。まぐ
白蓮。菴香。厚朴。茯苓。陳皮。
紫之類。ゆり。おなまさん子。度
人の物とてしゆく。てしゆく。てしゆく。
ちんぴとろは。紫之類。てのや。とばの
茶とてしゆく。た。茶。とてしゆく。

十

とてしゆく。おゆとてしゆく。
正しき。茶とてしゆく。おゆとてしゆく。
なごみ。茶とてしゆく。おゆとてしゆく。
とてしゆく。茶とてしゆく。おゆとてしゆく。
とてしゆく。茶とてしゆく。おゆとてしゆく。
とてしゆく。茶とてしゆく。おゆとてしゆく。
とてしゆく。茶とてしゆく。おゆとてしゆく。

観^すが^りひのふ。[寛] 寛^すの^かる^るが^る
 主^すぐ^り知^れれ^りつ^まま^らさ^りん^ごの。[由]
 ぞう^しし^ち福^んん^ご仕^ふが^ご
 せん^まと^んあ^さふ^ける^る。杖^ちし^と火^をら^そ
 かし^しま^ひの^まハ^福の^の。イヤ^ここ^小
 上^ぐき^とす^る [秋] 小^僧ど^んふ^ねん^ごよ。
お師の状とてうらやまにわらべて
お師の状とてうらやまにわらべて

ち^りの^りも^ねの^り。
 何^れも^も抄^せこ^ごが^福は^身法^と
 浮^智田^の平^{さん}の^所へ^のら^て。
 道^者の^所へ^来中^ここ^らち^小
 飛^りた^ちま^るく^らん^結へ^留ま^る
 の^り帰^けく^らん^結ご^うと^抄れ^り
 中^ゆり。 [小] 僧^の春^山換^校く。
のこ中ゆりんごせり
とち中れと

来り申す。有り。お秋さんなんとなんとい
なまら。さんごさまい。うら。ちぞ一人。
海。うら。や。秋。日。一。速。て
行。秋。と。うら。や。海。一。く。な。ふ
か。お。あ。の。人。と。あ。な。せ。申。す。
と。う。一。や。あ。の。人。と。あ。な。せ。申。す。
海。ん。ち。さ。び。ま。の。な。ま。の。ゆ。海。と。な。せ。と。

あふ目が有る。高。賣。と。き。云。あ。う。
四。文。ご。こ。と。つ。ふ。ま。ん。ち。う。金。あ。乃。
ら。ま。う。箱。と。か。つ。う。せ。う。猫。の。む。よ
め。さ。や。ど。か。内。へ。行。く。雨。が。馬。の。小。便
小。ち。び。と。付。く。と。つ。ふ。茶。と。吞。ま。う。
お。お。ん。じ。の。泥。仕。合。で。も。付。さ。う。と
思。ふ。手。と。出。さ。れ。し。時。候。と。見。る。の。ハ。

ちどゆらねてしつてきかんろの
よふは是れおわなんどはごふする。

ゆり 三味線と出しくらんね

ゆり と合する **ゆり** よく切まる糸ごの

まゝ切れさるりかざななり

とちりゆらさのかまきよりこの糸と出と
なる厚くみこのやうなものとおとす

長今 それゆりひらめが出せ

秋 そんなかすすといふごととちり

まはふなんね **ゆり** 長めいぐちり

お秋さん見せやうと お思らるる

秋 ちんご **ゆり** 三味線さんか

りう屋すを とく 油次さんと し おつさん

おし お 舌さん お 付このま **秋**

まご お 見やせん **三人** どれ見せね

~~~~~

くまの物で合雲が合隙合の  
わじが合あふ合それ合も合世界合  
あんま合志合あ合ふ合ふ合と合結合あ合ふ合  
深合氣合う合ら合は合清合を合た合く合ひ合ふ  
星合と合わ合と合結合ぐ合ひ合の合糸合乃

雲合々合ふ合何合さ合る合際合な合ら  
ゆ合れ合波合が合と合つ合と合ふ  
い合そ合ぐ合れ合く合せ合海合の合深合の  
井合の合ひ合出合る合廣合の合世合界合小  
ゆ合く合も合も合む合糸合と合く合と合真

三

皇合不中紙が<sup>ハレ</sup>向

河海法門<sup>ノ</sup>ま<sup>ハ</sup>な<sup>ハ</sup>思

年月紙日<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>度<sup>ハ</sup>く

婦<sup>ハ</sup>英<sup>ハ</sup>月<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>紀<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>下

之<sup>ハ</sup>海<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>紫<sup>ハ</sup>紙<sup>ハ</sup>風<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>い

十七

事<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>書<sup>ハ</sup>合<sup>ハ</sup>義<sup>ハ</sup>理<sup>ハ</sup>と

以<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>性<sup>ハ</sup>関<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>戸<sup>ハ</sup>紙<sup>ハ</sup> 世<sup>ハ</sup>一

かん<sup>ハ</sup>結<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ね

それ<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>結<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>免<sup>ハ</sup>下<sup>ハ</sup>と

可流 能ふ出あこのふ **長命** 温氣か

おし子不とらゆとくうごさやせん

やういさ しと合せ 志内を乃まう浦のいざ

とるふりも 好しれんがぬふふ

大川 いさ 永代寺 いさ 下とくを存むふふふふふふ

の いさ 川 いさ **あり** むふふの聲おとよふふ

お いさ り いさ さん いさ ふ いさ り いさ り いさ り いさ り いさ り いさ り

あ いさ 牛 いさ 一 いさ ま いさ ひ いさ 絵 いさ や いさ かん いさ ぞ いさ

ま いさ ち いさ の いさ お いさ り いさ さん いさ の いさ 声 いさ

さ いさ ら いさ ね いさ さん いさ の いさ 声 いさ

こ いさ せ いさ 一 いさ た いさ が いさ ち いさ の いさ 声 いさ

か いさ さん いさ も いさ 死 いさ を いさ 中 いさ た いさ り いさ ち いさ の いさ 声 いさ

の いさ 声 いさ 者 いさ の いさ な いさ ら いさ ね いさ さん いさ の いさ 声 いさ

永代寺の いさ **あり** さん いさ の いさ 声 いさ さん いさ の いさ 声 いさ













おくりをさうきやうに  
中へらひの事とた  
らしいぐらゐんがよでもくむ  
ふらふらと水くけらる 長命 さうのこ  
何とてまよとせりしとせりし  
も祓ふよふ仕祓な 秋 長えん  
波打せしお客のまぐさや

いふらひがガ 藤巻の茶屋でカ  
ふと十二文のきよめやうにおきやの  
見くぐらせしすにぐらゐんのころひ  
ころちやア何とも思ふや 下流  
やうなにおきふら女湯へさう  
こきも降らやうな 後 ま ま ま  
おゆりそれやうと思ふさうなは



うらたに。三人ハ中野のやうに秋 **秋** 招あせえん

首尾よくいつそ嬉しく心の **秋** 招あせえん

小もいつ屋せん。いそいでいと合せやす。

**秋** 何く理屋と付らと。招密を

あくらさるといふらん。いそいで

日らひふよめく。いそいで招あせ

が残りし。いそいでいそいで招あせ

海といふらん。いそいで **秋** 招あせえん

死んでもいそいで招あせ **秋** 招あせえん

眠る母ぐやめと。いそいで招あせ **秋** 招あせえん

是ういふ大勢いど招あせ **秋** 招あせえん

**長命** コレいそいで招あせ **秋** 招あせえん

よふふ招あせ **秋** 招あせえん

子ららんまういそいで招あせ **秋** 招あせえん



とくぐりし〜  
 昔の目つらひする  
 秋さん賢くして  
 何れぞのいはれま〜  
成平が所を尋る  
 申りさうさう〜たいら  
 長かすら〜  
成平〜  
 福が〜  
 さん〜  
 一〜

二十

物や志中〜  
成平 帰ら〜  
 目せ〜  
 福〜  
母場〜  
おの〜  
 ござり〜  
成平 大〜  
小 船〜  
舟 舟〜

舟ハどんり〜ふろ〜くあつは〜きさんハ  
 筆紙ハの庵〜〜定春の部ハ是ぎり  
 あり月ハ首ぎりそつり〜ゆ〜ゆも漢ハ〜こ  
 のを〜〜たが〜  
 一〜めり〜  
 け四重物次も本屋が春の部ハ〜  
 来〜ら〜夏秋冬の部ハ持〜来〜  
 せん〜後篇ハ出〜ら〜ふ。

帰稿

跋

大徳小曰孫ハ道連氣水今帰棉子一書ハ以て  
 跋知〜小辞〜を曰子能〜漢書者孫  
 亦多聖故〜道〜之宮亦通〜  
 腹と速〜哉妙哉其趣金〜  
 于文滿〜  
 論者毛棉子言曰言者〜旅ハ道連也と

於之<sup>レ</sup>策以<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>金<sup>ノ</sup>論<sup>ハ</sup>無<sup>カ</sup>益<sup>シ</sup>是<sup>レ</sup>ぞ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>も  
 道理<sup>ノ</sup>み<sup>テ</sup>松<sup>ノ</sup>魚<sup>ノ</sup>尔<sup>ル</sup>碇<sup>ト</sup>張<sup>ル</sup>決<sup>ス</sup>成<sup>ル</sup>し<sup>レ</sup>ど<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>も  
 聖<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>跋<sup>シ</sup>定<sup>ス</sup>素<sup>ク</sup>も<sup>テ</sup>呼<sup>ス</sup>方<sup>ト</sup>之<sup>ヲ</sup>成<sup>ス</sup>る<sup>ヲ</sup>麻  
 子<sup>一</sup>油<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>煎<sup>ル</sup>や<sup>キ</sup>む

安<sup>ク</sup>も<sup>テ</sup>ハ<sup>ツ</sup>美<sup>ク</sup>初<sup>メ</sup>書<sup>ス</sup>

一<sup>冊</sup>之<sup>ヲ</sup>由<sup>リ</sup>在<sup>リ</sup>竹<sup>ノ</sup>連<sup>ル</sup>



三<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>

